

目次

〈座談会〉

これからの野菜づくりをどうする

- 消費流通と産地体制の諸問題について…8
- 駐在員のMEMOから……………16

かいせつ

熊本野菜を伸ばすために

- 熊本県における野菜づくりの展望……………26
- ★ ひとこと…米ヶ田研男・丸山今朝徳

きれいな住みよい農村生活へ……………32

★ ここに人あり

ある樹芸林業家・宮本 等さん……………25

■ 県政の目 ■

米の生産調整について……………30

★ 県政なんでも相談室 ★……………34

屋外広告物・奨学金制度

〈 ずいそうページ 〉

長野 修・角田 太郎・白藤 朱根

■ 話のくずかご

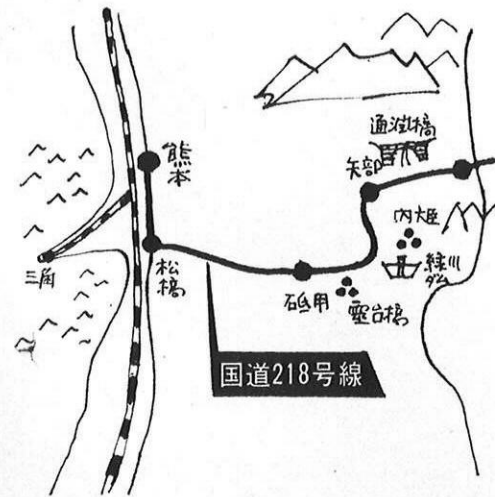
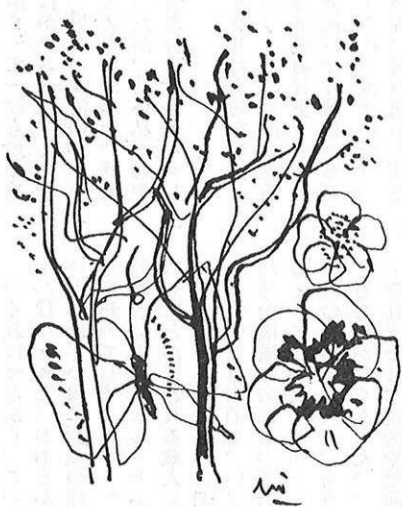
キセルでせなかを・沖津 正巳……………36

★ グラビヤページ ★

—特集— 系統出荷で伸びる熊本野菜
くまもとの特産〈肥後白玉粉〉ほか

★ センターカラー……………春の熊本城

★ 表紙……………阿蘇小国風景



九州中央部を横断する

ルート 218。それは、田園と山あいを走る道である。車窓で変化する沿線は、自然と生活が結びついた豊かさを感じさせるのである。

砥用町を流れる緑川。その上を、ルートに乗せて、軽快な新霊台橋がまたいでいる。それをはさんで、カラフルな緑川第二発電所のゲートと、古い石組みの重要文化財の旧霊台橋。新旧のコントラストが鮮やかだ。

ここから先は登り坂。九州山脈のふところへ入っていく。ヘアピンカーブが続く。現在、ここから約4kmにわたって県の道路改良工事が進んでいる。遠く、春の日に白く映える緑川ダム本体。緑川総合開発のかなめ作りは、着々と進行中だ。

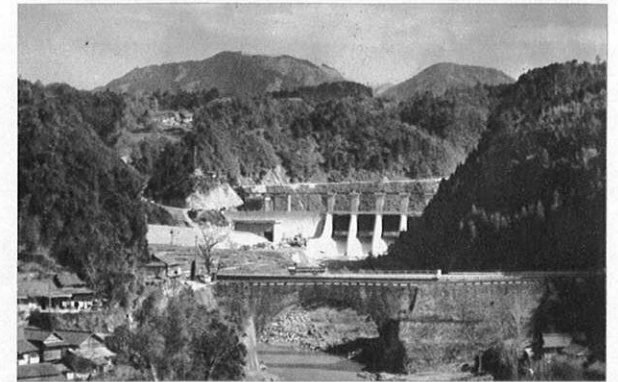
内大臣橋が見える。このあたり、秋ともなれば、全山が紅葉で彩られる。材木を満載したトラックが、唸りを上げて、ルートを下だってくる。蘇陽の町並みをすぎ、林の間を抜けると急に視野がひらける。左手に光と陰の変化をみせて雄大に広がる高原。遠くにかすむ阿蘇五岳。道端では、竹樋で引いた山の水が、絶えまなくかすかに音をたてていた。すぐそこが、ルート 218の県境であった。

〈ルート 218のメモ〉

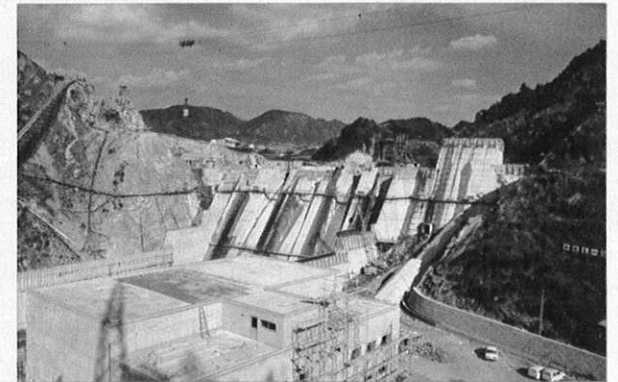
熊本市を起点に延岡市へ至る、九州のほぼ中央部を横断する幹線道路。県内の主な経過地は宇土市・松橋町・矢部町・蘇陽町。県内の総延長は、88.38km。(うちルート3との重用区間18.18km)。内大臣地区の森林資源をはじめ、緑川流域の農産物を運ぶ重要なルートである。



▲沿線には、放牧の牛や、木材の切り出しが見られるなど、自然味あふれる道である。



▲手前が重要文化財指定の霊台橋、その先には緑川第二発電所のゲートがみえる。



▲緑川総合開発の拠点となる緑川ダムの建設は、いま、順調に進んでいる。



▲ルート 218の熊本と宮崎の県境。阿蘇五岳が遠望される。